

一般客の宿泊機能は どうしても残してください！！



なかなか収益が伸びず、施設も古くなってきた阿寒町の赤いベレー。施設の今後の方向性を市役所内部で検討しています。

「赤いベレー」は阿寒本町地区にあるたった一つの宿泊施設です。また日帰り入浴として、多くの地元町民に親しまれている温泉です。宿泊を含めて、なくてはならない施設です。

R2年度に、コンサルタントに委託して、今後の施設の在り方を検討してもらい、翌年に報告書が出されました。

宿泊機能を残すか、残すならどういう形にするか。いま、スポーツ合宿を中心に、団体宿泊施設として、存続させる考えも出されています。

赤いベレーの強み

温泉で、三食付、送迎バスもある「赤いベレー」の強みを生かすことができます。大学サッカー部の合宿が赤いベレーに逗留しています。スポーツ合宿を大いに受け入れることは賛成です。施設の古さもありま

一般個人客の宿泊も

しかし、合宿オンリーでは困ります。阿寒本町には宿泊施設がありませんから



観光はもちろんですが、遠方から冠婚葬祭などで訪ねてこられたお客様に泊まっていたいただくこともあるからです。

観光と旅行は国民の権利

ともすると市の観光施策はアドベンチャー・ツーリズムだ、インバウンドだと言って、外国人など富裕層の集客にばかり目が行きがちです。

しかし、ヨーロッパなどでは「ソーシャル・ツーリズム」と言って、所得の低い層も含めて、国民には誰でも「観光と旅行を楽しむ権利」がある、費用をあまりかけず誰もが観光を楽しめるようにする責任が行政にはあるという考えが広がっています。

日本の観光消費は4割の人が8割を占め、貧困の広がりもあり、一泊旅行もほとんどできないという国民がかなりいます。

年に一度くらいは地元の人がゆっくり温泉旅館にも泊まれる。赤いベレーはそうした施設としても必要です。



村上かずしげ通信 23.11.19

発行 日本共産党釧路市議団

